

平成 30 年 9 月 21 日現在

機関番号：37402

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26380763

研究課題名(和文) 女性困窮者の就労による社会包摂及びそのプロセスに関する社会福祉援助方法論的研究

研究課題名(英文) A Study on the Methodology and Prosess of the Social Inclusion and Empowerment of Immigrant Women

研究代表者

仁科 伸子(Nishina, Nobuko)

熊本学園大学・社会福祉学部・准教授

研究者番号：30707683

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では女性移民の社会参加とエンパワメントの関係性を検証した。エンパワメント指標17項目を因子分析によって4つの因子、社会サービスへのアクセシビリティを示す「アクセシビリティ因子」、借り入れや、貯蓄の有無などを示す「経済性因子」、教会やコミュニティへの参加を示す「社会活動因子」、信頼できる友人や、友人の有無からなる「社会関係性因子」に分解した。まず、エンパワメントにおいて4つの性質の異なる因子が抽出されている。「社会関係性」と英語力との関連性は低かったが、「経済性因子」との関係性は有意に高かった。

研究成果の概要(英文)：This research clarified the following. English ability significantly relates to satisfaction with respect to the whole life, satisfaction with work, in economic life, but not relevant in the other items. Seventeen empowerment factor items are multivariate analyzed by SPSS into four factors. They are clarified following. "Accessibility factor" shows accessibility to social and public services. "Economic factor" shows the presence of savings or brownning money, "social activity" shows participation in church and community. The relation between "social relationship" and English ability was not significant. "Factor", reliable friends and "social relationship factor" consisting of the presence or absence of friends. The most significant difference appeared is "economic factor", which is consistent in this study. In other words, the economic foundation, steadily employment, economic stability are relevant to English ability.

研究分野：社会福祉学

キーワード：エンパワメント 移民女性 アメリカ シカゴ 就労 インテグレーション コミュニティ コミュニティ・オーガニゼーション

1. 研究開始当初の背景

アメリカ合衆国は移民の国である。ヨーロッパ諸国における政変、宗教的コンフリクト、経済的困窮、農作物の不作などが起こるたびに、大量の移民がアメリカ大陸に向かって流入してきた。近年では、メキシコや南アメリカにおける政変、経済的な困窮によって多くの移民がやってくる。1980年代以降は、メキシコ系移民が増加している。

合衆国統計調査を元に **Pew Hispanic center** が取りまとめた「アメリカに住むヒスパニック系の女性」によると次のような特徴が挙げられている (**Gonzales, 2008**)。アメリカに暮らすヒスパニック系女性の約半分は、アメリカ生まれである。その半分は、両親もアメリカに生まれている。しかし、残りの半分は、他の国に生まれてアメリカにやってきている。また、年齢でみると、ヒスパニック系女性の年齢の中央値は、他の人種の女性に比べて若い。

言語については、約 55%のヒスパニック系移民女性が自宅では英語のみを話しており、その英語能力はかなり高いものであるとしている。これらの英語を話せる女性のほとんどがアメリカで生まれている。移民としてやってきた女性の 73%は英語を話さず、家庭では英語以外の言葉を話している。

ヒスパニック系女性は出生率が高く、1年間に 1000人のうち 84人が出産するのに対して、非ヒスパニック系女性では 64人ととどまっている。これらの出産したヒスパニック系女性のうち約 42%が未婚である。他方、非ヒスパニック系女性の未婚での出産は 34%にとどまる。

教育歴を見ると、ヒスパニック系女性では 36%が高校卒業以下の学歴であるのに対して、非ヒスパニック系では、10%以下である。

就業している女性の割合は、非ヒスパニック系とヒスパニック系では 61%と 59%でほぼ同等であるが、アメリカに生まれたヒスパ

ニック系女性は 64%が職についている。フルタイムで働く女性の 1週間の賃金を比較すると、ヒスパニック系女性の賃金の中央値は 460ドルに過ぎないが、非ヒスパニック系女性では、615ドルである。アメリカに生まれたヒスパニック系女性の賃金が 450ドルであるのに対して、移民してきた女性では 400ドルにとどまる。また、ヒスパニック系女性は、貧困線以下に陥る割合が 20%、非ヒスパニック系では 11%となっており、約 2倍の差がある。働いているヒスパニック系女性の一般的な地位は、事務員か、事務補助である。ヒスパニック系女性は、非ヒスパニック系女性よりもブルーカラーとして就業する割合が高い。

このように、アメリカにおいてヒスパニック系女性のおかれている立場は、非ヒスパニック系女性に比べて不利なものである。アメリカ合衆国で生まれていない移民の女性たちは更に不利な立場におかれていることがこの分析から明らかになっている。この結果から、移民女性は、経済的に不利な状況におかれていることが明らかである。

ローガンスクエア地域には、複数のコミュニティ・オーガニゼーションが存在するが、活動期間 50年を超えているローガンスクエア・ネイバーフッド・アソシエーション (**LSNA**) が中心的存在である。**LSNA**の初期の活動は、銀行や保険会社が行ったレッドライニングといわれる住宅ローンや住宅保険を地域によって差別的に扱うやり方に反対して地域住民を組織化した。現在も地域の移民の生活を支援する活動を続けている。

この組織の重点的な取り組みの1つに「ペアレント・メンター」がある。ペアレント・メンターは、小学校に通う子どもの親たちが教室で子どもの勉強の手助けをしているものである。移民の子どもたちは、英語がわからないため、しばしば授業についていけず、ヒスパニック系移民の高校進学率はもっとも低

く、かつ、中退率はもっとも高い。本事業は、地域の中で20年以上続いているが、参加者の中から、再度教育を受けてバイリンガルの教師となるもの、コミュニティ・オーガナイザーとなるもの、学校でこの事業のコーディネーターとなるものなど、それまで、家庭の中に閉じこもりがちであった移民女性たちが次々にエンパワメントされ、注目を浴びている（Hon 2011 他）。

2. 研究の目的

(1) 目的と意義

シカゴ市ローガンスクエア地区で20年にわたって実施されているペアレント・メンター事業は、英語を母国語としない子どもの学習を支援すると同時に、貧困や過酷な労働に従事し、英語が話せないために社会的に阻害されている女性たちの地域社会へのインテグレーションの足がかりとして成果をあげている。

インテグレーションとは、統合とも称され、主には社会的に何らかの不利な条件を抱える対象者が地域の中で排除されることなく統合されて生活していくことである。インテグレーションは、社会福祉援助方法論の中でも重要なテーマである。特に、移民問題においては、地域社会の中で異質な存在として差別され、情報や教育、生活サービス、地域コミュニティから排除されないように支援することで、自立や統合を促すことが重要である。

ローガンスクエア地区で活動するローガンスクエア・ネイバーフッド・アソシエーション（以下LSNAと省略）が実施する移民支援活動はマーク・ワレンによって学校と地域のつながりの重要性（Warren 2011）、スー・ホンによって、ペアレント・メンター事業の地域貢献性（Hong 2011）について研究されている。

本研究では、社会福祉援助方法論の観点から、この事業に関する移民のインテグレーション、及びエンパワメントに焦点を当ててい

る。LSNAは、過去20年間移民女性たちを支援することによって、地域のコミュニティ・ワーカーやバイリンガルの教員等を数多く輩出しており大きな成功を収めている。本研究の意義は、社会の中で不利な立場に陥りがちな移民女性のエンパワメントの成功事例について、その要因、手法について分析することである。

3. 研究の方法

本研究では、半構造化インタビュー及びアンケート調査から構成されている。この2つの研究を二段階に捉えて、第一段階ではLSNAが支援してきた女性たちのうち、この事業に参加したことによってトランスフォームを経験し、現在コミュニティや教育の現場でコーディネーターや教員として働いている人を中心に半構造化インタビュー調査を行って、これらの人々の到達点を見出した。到達点は、33項目にわたる。

調査期間： 2015年8月1日～8月20日
2016年4月1日～4月30日

第二段階として、第1の調査で得た到達項目33項目を用いてアンケート調査を実施した。アンケートは、英語及びスペイン語の2種類を作成し、対応する言語に応じて配布した。

配布方法は、地域のコミュニティ・オーガニゼーションの協力により、各小学校においてボランティアを行っているコーディネーターを通じてその地域に暮らす、あるいは、各小学校に関わるボランティア経験者に対して、アンケート票を配布、留め置きして自記入後回収した。配布数は300票、この結果、255票が回収された。記入量の極端に少ないものは、不適当な言語のアンケート用紙が渡されたか、あるいは回答困難と考えて無効とし、有効回答数は242票となった。統計処理において統計上欠損値があるものについては除外し、回答ごとに有効回答数を算出している。なお、本研究の研究倫理については、2015年

7月熊本学園大学研究活動適正化委員会における倫理審査を通過し、倫理上の問題のない研究かつ、研究方法であることを承認されている。

4. 研究成果

インタビュー調査による研究結果では、以下の点が明らかになった。

ペアレント・メンター事業の参加者は移民としてシカゴにやってきたか、あるいは、アメリカに生まれたマイノリティーグループであって、ペアレントメンター事業への参加の後に、経済的地位や、社会的な地位を獲得している対象者に対してインタビュー調査を行って、エンパワメントの構造を分析するための材料とした。エンパワメントには、多様な側面がみられ、単に経済的自立だけではなくソーシャルキャピタルの増加や、家庭内での親子や夫婦の関係性の強化や改善、政治活動や選挙等といった権威へのアクセス、自分自身の健康の維持等を含む幅広い概念であると考え、エンパワメントの多様性を明らかにすることを試みた。この結果、33項目にわたる「結果」を抽出し、これをもとに量的調査を実施して、エンパワメントとは何か探ることにした。

300票の量的調査を実施し、エンパワメントの構造とその要因を分析した結果、以下の点が明らかになった。

まず、個人の成長とセルフエスティームに大きな変化がみられたが、これは必ずしも経済的な成功には関係していなかった。顕著にみられたのは、市民社会への参加であった。選挙、政治的活動、要求運動等に関わるようになったという変化がみられた。また、ボランティア活動や、地域コミュニティへの参加が増加している。雇用に関しては、本人の英語能力との関係性が有意に高く、結果的に移民女性が経済的な自立を獲得するための重要な要素のひとつとして語学の習得が必要であることが明らかになった。

エンパワメントそのものの結果としては、高いエンパワメントを獲得したものと、そうでないものとの格差が大きいことが明らかになった。

移民女性にとってのエンパワメントとは何かを分析すると、以下のような4つの要素が認められた。

- 社会サービスや情報へのアクセシビリティを勝ち取るアクセシブル・エンパワメント
- 「借金ができる」「貯蓄がある」「有給の職についている」「経済的に安定できている」によって構成されている経済的エンパワメント
- 「ローカルグループへの参加」「教会に所属している」「コミュニティへの奉仕」「選挙に行く」「政治的活動に参加」によって構成されるコミュニティ・エンパワメント
- 「友人がいる」「1人以上の信頼できる友人がいる」から構成されている社会関係性エンパワメントとなった。

エンパワメントの中でも、経済的なエンパワメント、つまり、定期的な収入のある職に就く、正規に雇用される、経済的な余裕があることを実現するためには、英語の能力を高めることが必要であるという結果が明らかになった。反対に、経済的エンパワメント以外の項目には、英語のスキルは関連していなかった。このことは、スペイン語を話すコミュニティに暮らしていることが関連していると想定される。

また、コミュニティ・エンパワメントは、個人のエンパワメントの蓄積の上に実現しており、この成立のためには、コミュニティ・オーガナイザーによる側面的支援が不可欠であることが明らかになった。教育へのかかわりが個人のエンパワメントやトランスフォーメーションに大きな影響を与えていることが考察された。また、コミュニティ・オーガナイゼーションの組織としての実力が事業の推進

と社会制度化に影響を与えている。コミュニティ・エンパワメントとは、結果的に地域における個人のエンパワメントの蓄積と、個人のコミュニティへのコミットメント、さらには、地域において組織化された住民の政策や政治へのアプローチやコミットメントといった要素に分解される。

本研究の結果、移民女性のエンパワメントの構造は、経済的エンパワメントのみならず、アクセシビリティ、経済、コミュニティ、社会関係性などの多様性を持っていることが明らかになった。本研究で得たデータは、まだ若干の分析の余地が残されており、今後は、エンパワメントを構成する因子ごとに、その要因を分析し、海外雑誌への投稿を行う予定である。

本研究の限界は、ひとつのコミュニティにおける、ひとつの事業に参加した女性に限られており、今後研究の対象を広げて汎用性を確認する必要がある。異なる文化や環境の下では、結果が異なる可能性はあるが、その中でも共通性を見出すことによって、エンパワメントの方法論について探求していく。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 4 件)

仁科伸子「シカゴにおける移民女性の英語力が近隣生活におけるエンパワメントに及ぼす影響に関する研究」、『社会関係研究』第 23 巻第 2 号, 2018 年 3 月(査読付き) [AN10474712](#)

仁科伸子「ローガンスクエア近隣地域における移民女性のエンパワメント調査第一次集計結果」、『社会関係研究』第 23 巻第 1 号, 2018 年 3 月, p.85-102 (査読付き)

<https://ci.nii.ac.jp/naid/120006470428/>

仁科伸子「アメリカ人口減少都市地域における衰退とソーシャルエクスクルージョンの過程 住民の語りから見るイングルウッド・コミュニティ・エリアの半世紀」、『社会福祉研究所報』第 45 号, 熊本学園大学社会福祉研究所, 2017 年, p.41-64 (査読付き)

[AN00110913](#)

仁科伸子「就労を通じた女性のインテグレーション

の過程に関するインタビュー記録 ペアレント・メンター事業参加者のインタビュー結果」、『海外事情研究』第 43 巻第 1 号(通巻 86 号) 熊本学園大学附属海外事情研究所 2016, p.131-143 (査読付き) [AN00035115](#)

〔学会発表〕(計 5 件)

仁科伸子「移民女性のエンパワメントの構造分析」地域福祉学会, 静岡福祉大学, 2018 年 6 月

仁科伸子, 発表課題『シカゴのコミュニティ・ベイスト・オーガニゼーションの実態と考察』江戸川大学, コミュニティ政策学会シンポジウム, 2016 年(招待講演)

仁科伸子「移民第一世代女性のインテグレーションの過程と要因」日本福祉のまちづくり学会, 東京大学柏キャンパス, 2015 年 8 月

仁科伸子「シカゴ市ローガンスクエア地区におけるコミュニティ・エージェンシーの役割に関する考察」第 131 回社会政策学会, 2015 年 11 月, 西南学院大学

仁科伸子「人口減少都市シカゴにおけるコミュニティ・マネジメント」熊本学園大学社会福祉研究所, 2015 年 12 月

6. 研究組織

(1) 研究代表者

仁科 伸子 (Nobuko Nishina)
熊本学園大学社会福祉学部准教授
研究者番号: 30707683

(2) 研究分担者 なし

(3) 研究協力者

ローガンスクエア・ネイバーフッド・アソシエーション (Logan Square Neighborhood Association)
シカゴ市ローガンスクエア地域のコミュニティ・オーガニゼーション

リスク・シカゴ (Local Initiatives Support Corporation = LISC)
シカゴ市で活動する中間支援組織